

私の宝物

く部活動を通して

小林恵美さん

(鷺別中学校3年)

中学校生活も残りわずかとなったこの秋、わたしは『北海道子ども木工作品コンクール』で最優秀賞と『受信環境クリーン図案コンクール』で北海道協議会会長賞(準特選)という大きな賞を2つも頂くことができました。その時の驚きとうれしさは、これからも忘れることはないと思います。

1年生から美術部に入り、ずっと楽しく活動してこれたのは顧問の先生や仲間みんなのおかげなのでとても感謝しています。この気持ちを宝物として、これからも絵を描くことを続けていきたいと考えています。また、登別市主催の『登別市児童生徒図工美術展』でも毎年展示させていただき、とても楽しい思い出を作ることができました。登別市ではほかにも色々な芸術部門でのイベントを開催してくれるので、これからも機会があれば参加したいと思っています。

今、わたしは受験生なので絵を描く時間はあまり取れませんが、4月からは、志望高校に入学して美術部に入り、好きな絵をたくさん描き、新しいことにも挑戦していきたいです。

す。



健康増進計画の策定を終えて

新井 良さん

(登別医師協議会長)

新しい年を迎え、今年も健康で病気知らずの年にしたいものです。

医学の進歩は著しく、今まで分からなかった病気の原因が遺伝子レベルで解明され、治療も可能な時代となってきました。病気にかかっている方にとっては希望の光が見えてきています。

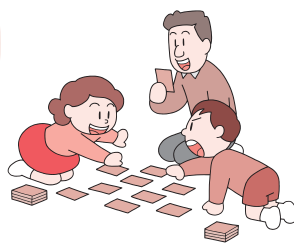
ですが、やはり病気にかからないことが一番の幸せです。

登別市では、昨年より10年を計画期間とする『登別市健康増進計画』を立てました。

これを見習い、わたしも、今年さらには自分の健康に気を付け、月並みではありませんが食生活、生活習慣を改善し、10年後の自分のために基

礎体力を養いたいと思います。

皆さまも10年後を目指して頑張ってください。そして、病気知らずの登別を自慢したいと思います。



生涯の一句を目指して

小林碧水さん

(登別川柳社主幹)

趣味で始めた川柳作句が30年を超えた昨年7月、岩見沢市において開催された『北海道川柳大会』で、3千580句の中から、思いもよらず、わたしの句が最高位の『知事賞』となった。

驚くと同時に、苦しみながらも継続することの大切さと、その結果として榮譽を与えられ、その喜びを味わった。

30年を過ぎた川柳作りも、時には情性に流され、同じような句、魂の抜けたような句ばかり作る日々が続いたりする。

今まで作った句の数は万の数になるけれど、いまだ誇れる一句、自分も納得できる生涯に残る一句はない。今年もその一句を目指して句作に

励みたいと思っている。

毎月発行している柳誌『のぼりべつ』もこの3月で400号を迎えることになり、会員と共に喜びを分かち合い、川柳の普及と質的向上に努めたいと思っている。

合併の地図

越えてゆく村の鐘

(北海道知事賞受賞作)



夢をかなえてみませんか

小杉博暉さん

(登別市体育協会常任理事)

皆さんは、どんな夢をもっていますか。そして、その夢に向かっていきますか。

ある物事の夢と希望に向かっていくとそこに苦しみや出会いが生まれれます。

自分の夢をかなえるため、今何をやるべきなのか、若いころの苦しみや出会いが助けしてくれることもあります。